

# ボランティアコーディネーターのかかわり

## ボランティアコーディネーターのかかわり (6月)

### (6月)

現代社会は、さまざまな要因によって、さまざまな課題を抱え「ボランティアを必要としている人」が増えている。しかし、その願いをどこに相談したらいいかわからない、一方で「何かしたいが、何をどのようにすればいいかわからない」という思いがある。

これら両者の願い、思いを引き出し（ときには掘り起こし）、受容し、つなぐ動きが不可欠である。それがなければ両者の願い、思いが個々の内なる段階でとどまってしまい、活動に結びついていかないことになる。これを木谷宣弘は『出会いを創出し支えあい活動を推進していく働き』と述べている。

個々のニーズを掘り起こし引き出し社会的に浮かびあがらせ、それらを受け止めて、個々の持ち味を生かしながら・ふくらませながら、両者の尊厳を大切にし、つないでいく働きが必要である。このことによって、市民の主体的で生き生きとした社会参加を促進したり、住民が主体的に社会問題を解決していく力を高めたり、共に生きる、より人間性豊かな市民社会づくりを推進していったりするものである。

さまざまな課題を抱え、いわば“SOS”ともいえるニーズの解決にかかわっていくとき、『すべてのニーズにボランティアがかかわってはいけない』とし、ボランティアの役割は何かを十分に捉えてからかかわっていく必要がある。その理由として『本来ボランティアが担うべきでない課題までをボランティアが担ってしまうことは、結果として、やがてボランティアの思いをつぶしてしまったり、大きくとらえて社会全体のよりよい発展を妨げになることになりかねない』からである。このことから、ボランティアコーディネーターが問題の全容を客観化しながら、ボランティアを必要としている人の自立促進をしていくために、具体的な目標を立て支援プログラムを作成していくなかで、そのニーズは本来まずどこが担っていくのかをしっかりと見定める視点が重要なのである。たとえば、公的サービスがかかわるべきか、友人や近隣は、ボランティアがかかわるべきか、かかわるとすればその役割と意義は、他のふさわしい団体になど、問題の全容を明らかにしながら、同時に本来あるべき方向を考察していく、明確にしていく視点である。

ボランティアを必要としている人とボランティアがかかわっていくとき、両者の間に入って、両者の思いをすり合わせ、より意思疎通させ噛み合っていくように働きかけたり、活動上の諸条件を当初の段階で明確に確

認し約束しあったりすることは、活動を円滑にかつ継続して展開していくうえで大きな力を発揮する。マッチングは『両者同士のみでは、あいまいな状態のまま活動が展開されやすくなりがち』である。あいまいな状態で活動が展開されていくと、やがてズレが大きくなっていき、両者が思っていたこととは違うとなる可能性も考えられる。

ボランティアコーディネーターが担うのは、両者の間に入って両者の思い、諸条件等をより明確にし、コーディネートしながら、より結合させていく役割で、活動を円滑に効果的に継続させていくうえで重要な役割である。

また、さまざまな社会資源やボランティア活動に関する情報を収集したり、それらを広く社会に広報したり、さまざまな社会的課題の存在を広く社会に啓発したりしていくことによって、あるいは身近なところでボランティア活動に関するアドバイスをしてくれる人材を養成したりすることによってボランティア活動を社会により広め根付かせていく取り組みがある。さらに、ボランティアグループを養成したり、活動を質的に向上させていくために研修したり、あるいはボランティアを必要としている人やボランティアをネットワーク化したり、当事者とボランティア・ボランティアとボランティア同士が交流しあえたりなどのプログラムによって、活動を点検しより深めたり、ボランティアを必要としている人やボランティアの主体性を育てたりなど、活動をより高めたりする取り組みなどがある。

ここまでのボランティアコーディネーターの「役割」である。

しかし、両者がつながって一件落着とするボランティアコーディネーターが多い。ボランティア活動は人とモノのつながりではなく、人と人とのつながりが基本になる。人は生きている、暮らしは変化している。ニーズはずっと固定されたものではなく、変化していく。活動を継続させていくうちに両者の状況に大きく変化が生じていく可能性を秘めている。このようなとき、両者間を調整し両者の関係をより豊かにしていく働きが存在することは多大な効果を発揮すると考える。両者のよりよい人間関係が構築され、ボランティアを必要としている人の自立がより促進され両者のあり方がより豊かになっていくためには、両者を受け入れ支持しながら、活動が円滑に効果的に継続されていくように支援していくフォローが必要である。

